外来部門

発達に障害を持っている児を対象に、医療、各種機能訓練、集団療育、心理療法、幼児保育、療育相談などを行っています。診療科目は整形外科、小児科（小児神経・小児発達・小児心療）、リハビリテーション科に加えて、非常設科として、小児歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の診療を行っています。

１　実　績

令和４年度の外来患者数は、のべ２９，５８５人。１日平均患者数は、個別訓練や集団療育を含めると１２１人／日。また、小児科診察で新患、再診の多い曜日には、１４３人／日の外来者があります。言語の遅れや落ち着きがないなどの小児発達や不登校などの小児心療科を受診する児は、増加しており、巡回療育相談や健診、地域の小児科からの紹介、保育所や学校からの紹介が増えています。

はじめての受診後は、当センターや地域での療育につなげています。

また、専門医がいない地域などに出向いて診療を行っており、令和４年度は諫早総合病院、西海市等乳幼児健診、五島中央病院、上五島病院、長崎大学病院小児科、長崎子ども・女性・障害者支援センター、佐世保市子ども発達センター、佐々町立診療所となっています。

２　担当スタッフ　　※他部門との重複を含む

医師：１０名、薬剤師：１名、診療放射線技師：１名、臨床検査技師：１名、理学療法士：７名
作業療法士：７名、言語聴覚士：５名、看護師：８名、保育士：１４名、児童指導員：２名
心理士：６名、管理栄養士：２名、調理員：８名　　（令和５年５月現在）

３　業務内容

診察、治療、手術、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、療育相談及び指導、栄養指導や摂食指導、幼児保育や療育、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、ペアレントトレーニング等

４　外来診療体制

以下の体制で、予約制をとり診療しています。けいれん発作やけいれん重積発作、肢体に基礎疾患のある児（者）の骨折などは、緊急対応を行います。診療は発達状況や障害の評価が必要に応じて行われます。

常設科	小児整形外科：月・水・金曜日（火曜日は手術） 小児発達・神経・心療：月～金曜日（新患は月・火・水・木の主に午前中）
非常設科	障害児歯科：月・火曜日 耳鼻咽喉科：第１木曜日　午後 泌尿器科：第２・４木曜日　午後
診察時間	９：００～１７：００
休診日	土・日・祝日

5　主な業務の特色

1）幼児保育

（1）趣　旨

医師をはじめ、多職種との連携のもとに発達段階に応じた保育を行い、子どもの持つ能力を引き出すとともに、集団への適応力を育て、地域の保育所や幼稚園への就園、通所支援事業所等利用へとつなぐことを目指します。

（2）目　的

○「遊び」を通じて様々な発達を促す。

○基本的生活習慣の自立を目指す。

○保護者の保育への参加を通して、子どもへの関わりについて支援する。

○地域の保育所、幼稚園へ入所する前段階と考え、集団への適応力を育てる。

○保護者間の交流を深め、育児の不安や悩みを話す場として活用してもらう。

病棟児・・・個々に応じて遊び方を工夫し、関わる職種間で連携・協力し、術後の回復やリハビリにしっかりと取り組めるように支援する。

親子入院・・・（リハビリ、ハンドリングが目的の入院）
保育の中で、入院目的に応じた観察およびアプローチを行う。保護者に対して、家庭での遊び方や関わり方を支援する。

外来児・・・個々のケースを観察し、発達段階に応じたアプローチを行う。親子保育を通して、保護者の子どもへの関わり方を支援する。地域の児童発達支援の利用や幼稚園・保育園の就園に向けて、集団への適応力を育てる。

（3）対象児

○医師の指示による未就学児

○医師が幼児保育の必要性を認めた児

○外来児については、保育所・幼稚園に就園していない児

○評価、診察待機児

（4）保育時間と内容

病棟・親子入院（月～金）	外　　来（火～金）
10:30　受け入れ 出席カード・名札貼り・自由遊び 10:45　体操、マッサージ、お集まり、ふれあい遊び、カレンダー、お天気調べ、呼名、ペープサート 11:00　設定保育(手を使ったあそび、運動あそび、リズムあそび、音楽療法) 11:15　おかえりのあいさつ	10:00　受け入れ 自由遊び 10:30　体操、呼名、ふれあい遊び マッサージ、ペープサート 設定保育（手を使ったあそび、運動あそび、リズムあそび・音楽療法） 11:15　おかえりのあいさつ
外　　来(評価等待機児)（月）	**め　だ　か**
10:00～11:00　ひよこグループ ３歳以下	10:40～11:10　（ＳＩ室）自由遊び、サーキットなど 11:10～11:15 排泄指導 11:15～11:45　（集団療育室）リトミック、マッサージ、認知課題、制作など

（5）その他

・保護者勉強会・・・・・・・・・専門職種との懇談を通して、子育てに関する知識を得る機会を設定。

・園への技術支援・・・・・・・就園後、保護者や園の依頼に応じて園支援を行う。就園先の職員の訪問・見学を受け入れる。

（6）保育実績

区　分			30 年度	元年度	2 年度	3 年度	4年度
外来		実人員	11	13	13	11	9
		延人員	105	226	199	191	124
病棟		実人員	20	26	17	13	20
		延人員	397	694	392	370	477
親子棟	らっこ	実人員	49	48	43	38	40
		延人員	392	487	458	410	435
	めだか	実人員	11	10	6	11	10
		延人員	56	67	30	62	51
	プレ	実人員	3	3	-	-	-
		延人員	12	12	-	-	-
合計		実人員	94	100	79	73	69
		延人員	962	1,486	1,079	1033	1087

※プレスクールは H30 まで実施　R1 は「いるか」として実施

2）外来・手術室の看護

外来・手術室は一単位であり、前述の看護部の理念をもとに看護を提供し、児(者)への援助の充実を図っています。

外来では、診察・治療・検査時の介助をはじめ、次回の外来予約（診療・処置・検査等）や入院予約時の対応など医師・療法士・心理士・検査技師・診療放射線技師・病棟看護師等の多職種と連携を図りながら援助しています。

また、保護者支援として保健師・社会福祉士・保育士と連携を図り、地域での援助につなげています。手術担当者は、外来で行われる手術前の診療から同席し、入院後に行う術前訪問等、手術前から児(者)や家族と関わっています。プレパレーションに力を入れ不安の軽減に努めています。また、手術時は安全・安楽に努め、手術後の病室訪問までを医師や病棟看護師と連携を図りながら行っています。

〇外来・手術室業務

外来	診療の介助 リハビリ前の診察介助 診療後の再診予約受付と調整 入院の受付 こどもの状況・心療に関する相談 ギプス巻き介助 処置介助 診療材料管理
手術	手術前の診療介助 手術中の介助 手術前後の訪問 中材業務

手術室

脳性麻痺・股関節脱臼・内反足・四肢変形などすべての小児整形外科疾患・外傷を対象として手術治療も行います。

３）外来訓練

（１）理学療法

〔目的〕

主に運動発達の遅れや運動障害のある子どもに対して、遊びや生活に必要な粗大運動能力（寝返る・起き上がるなどの姿勢変換能力、座る・立つなど姿勢保持能力、這う・歩くなどの移動能力）の向上を目指した治療や運動を行います。

重い運動障害を持つ子どもに対しては、日常生活を快適に過ごせるように、全身状態の改善・変形予防などの姿勢ケアを目指し治療を行います。また、家庭や学校などでの生活を快適・容易にするために、能力に適した椅子や車椅子・歩行器などの製作をお手伝いします。

〔対象〕

新生児から成人までと年齢は幅広く、中でも乳幼児から中学生までが多く、主な疾患は脳性麻痺、運動発達遅滞、脳炎後遺症、染色体異常、二分脊椎、脊椎側弯、骨形成不全症、発達性協調運動症、その他整形疾患などです。

〔スケジュール〕

・個　別　　月曜日から金曜日の９：１５～１７：１０で予約制

・プール療法　　毎週木曜日の１１：００～１２：００

（２）作業療法

〔目的〕

発達段階において何らかの困難さ・苦手さがある子ども達に対し、遊びを中心とした作業活動を通して、個々の子どもの発達課題や生活を考慮した治療を行います。また、障害があっても家庭や学校、社会で生き生きと生活できるよう指導、援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症（ASD）、限局性学習症（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、発達性協調運動症（DCD）等の発達障害児。知的発達症。染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症など肢体不自由児。

〔スケジュール〕

・個　別　月曜日から金曜日の９：１５～１７：１０で予約制

（３）言語聴覚療法

〔目的〕

コミュニケーションや、摂食・嚥下機能に何らかの困難さや苦手さがある子どもたちに対し、コミュニケーション手段の獲得、言語能力の向上、安全な摂食・嚥下機能の獲得を目的として、評価、訓練、助言等の援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症、限局性学習症等の発達障害児、言語症や語音症などのコミュニケーション症、染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症などの肢体不自由児、聴覚障害。

〔スケジュール〕

・個　別　　月曜日から金曜日の９：１５～１７：１０で予約制

（４）集団療育

自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、知的発達症などの子ども達に対してグループでの活動を実施します。

〔目的〕

① 医師、療法士、保育士、心理士他、様々な職種が一体となって子ども達の全体的な発達を促し、将来家庭や地域の中での自立・適応を目指します。

② グループ活動を通し、対人意識・対人関係能力を高め集団生活への適応を促します。

③ 保護者に対して、子ども達への関わり方や理解を深めるよう支援します。

④ 関係機関を訪問する等して連携し、子ども達への相互理解を深めます。

〔対象〕

対人コミュニケーションが上手くとれない、落ち着きがない、集団生活になじみにくい、認知能力に大きな偏りがあるなどの特性がある幼児から小学生で、医師が集団療育を必要と認めた方です。

・午前グループ：超早期(初診受付時、３才未満)、超早期フォローアップ
　　幼児（年齢と特性に応じたグループ）

・午後グループ：幼児、学齢児

〔頻度〕

・月２回～月４回（対象児による）

〔内容〕

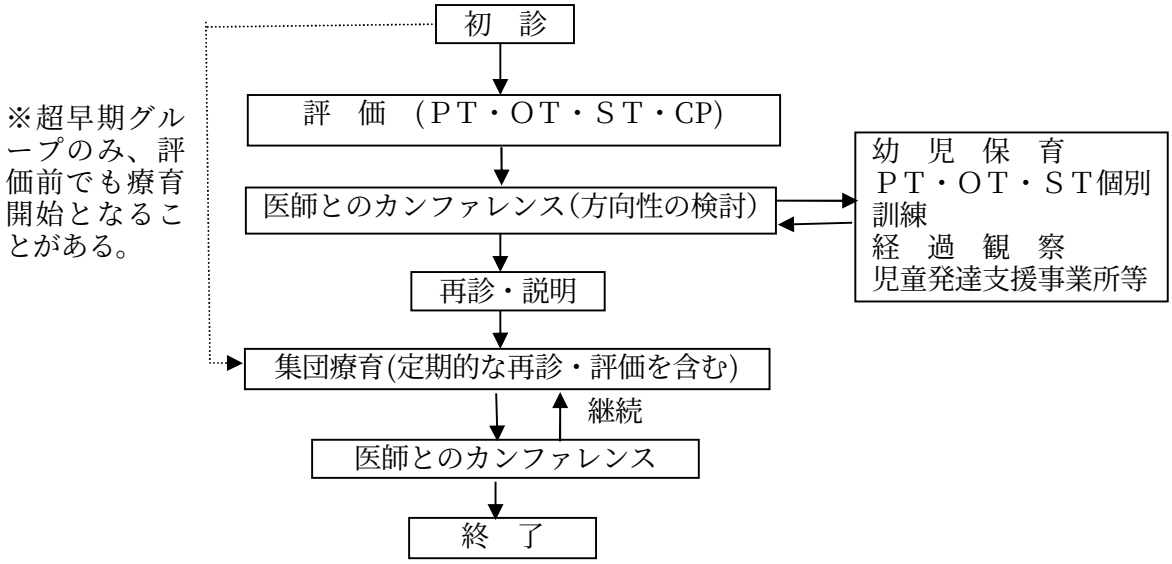
・小集団活動の中で子どもの状態に応じた課題や遊びを通して、対人意識やコミュニケーション能力を高め、ソーシャルスキルを学ぶ場を提供します。

・得意な活動とともに、苦手な活動にもチャレンジできるような場面設定や対応の仕方を工夫し、自信をつけられるように支援します。

・家庭や園・学校での様子を把握し、療育活動と関連づけ、保護者が療育及び子どもへの理解を深められるように支援する。また、言語、運動、遊び、日常生活動作、就学、福祉制度などについて専門職種による保護者勉強会を実施します。

・子どもが所属する園や学校などを訪問、支援するとともに、必要に応じて保護者によるサポートブック作成を援助し、地域で安心して生活するための一助とします。

《集団療育の流れ》



○療育登録者及び参加人数の推移(年度)

区　分	30年	元年	2年	3年	4年
登録者数	78	82	82	75	62
参加実人員	76	82	79	73	62
参加延人数	1,050	1,191	1,142	941	965

○関係機関訪問実績(年度)

箇所／年度	30年	元年	2年	3年	4年
幼稚園	4	8	1	0	3
保育所(園)	20	24	3	9	6
こども園	1	4	0	1	0
小学校	16	11	2	8	8
その他	1	8	0	3	0

○令和4年度学年別・居住地別登録者数

未満児	27
年　少	11
年　中	3
年　長	4
1　年	4
2　年	3
3　年	2
4　年	4
5　年	4
6　年	0

諫早市	36
大村市	8
長崎市	7
川棚町	1
雲仙市	8
南島原市	1
県外	1